
第96回会合の議論を踏まえた追加質問及び回答

2025年6月16日
株式会社NTTドコモ

モバイル接続料の検証関係（佐藤構成員）

問 ピーク時のみの追加容量提供について、MVNOからの要望が示されたと思います。ドコモは、ピーク時に対応して設備投資しているので、ピーク時のみ追加で容量提供することは、投資に影響を与えるといった返答であったと思います。
ピーク時に追加の容量を提供すること自体は、技術的に対応可能と理解してよろしいでしょうか。
ピーク時に追加容量を提供する場合、追加投資をカバーできる料金が設定できるのであれば、現実的に対応できると理解してよろしいでしょうか。できない場合は、こういった理由があるのか、説明してください。

回答

- 現状の帯域料金をそのまま時間単位で設定した場合、MVNOがピーク時間帯に借り増しすることが想定されるため、それ以外の時間帯に使われない設備コストについては、MNOが負担することとなり、MNOユーザとMVNOユーザとの間の不公平につながる懸念があります。（次頁イメージ図 参考）
- ピーク時のみ利用されることを前提に、コスト回収漏れがないように帯域料金を設定とした場合には、使われない時間帯の設備コストの分を加えて料金を設定することとなり、能率的な経営の下における適正原価・適正利潤の趣旨に沿わない可能性があります。（卸料金としては考え得るが、接続料の原則とは異なる、効用料金に近いものになると考えます。）
- どのような条件で帯域の借り増しを要望いただくか等によって実装内容が決まるため、現時点で確定的には申し上げられませんが、技術的には可能と想定しつつも、以下の点などで課題は多いと考えます。
 - 開発に相当な費用が必要
 - ネットワークの負荷を考慮して運用する必要（更なる設備増強が必要）
 - MVNOにおいても設備の対応が必要 等

- 現状の帯域料金をそのまま時間単位で設定した場合、MVNOがピーク時間帯に借り増しすることが想定されるため、それ以外の時間帯には使われない設備コストについては、MNOが負担することとなり、MNOユーザとMVNOユーザとの間の不公平につながる懸念

